

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	交流・貢献を通して地域との関係を深め、開かれた施設運営や利用者の日常の充実につなげている
	内容	地域に対する透明性の確保や理解・交流の促進を目指し、地域交流行事として施設公開を開催している。他事業所や学生などと連携しつつ、活動の体験、ゲームの実施、作品・製品の販売、模擬店やカフェの運営を行い、理解や交流の場としている。また、近隣の交差点での見守り支援を行うことで、利用者の安全な通所を支援しつつ、地域の子どもや学生、住民の安心安全に寄与している。さらに、小中学校や高校の生徒、多数のボランティアを積極的に受け入れ交流を深めている。こうしたつながりの積み重ねが、日常の充実につながっている。
2	タイトル	人事考課制度を見直し、新たな仕組みを導入している
	内容	社会保険労務士のアドバイスを受けながら新しい人事考課制度に整え、トライアルを経て今年度中の本格的な実施に向けて取り組んでいる。トライアルでは、人事考課シートが書きやすくなったと職員からも好評である。新制度では、評価の項目と基準が定められるほか、異動で事業形態の違う他の事業所に移った場合にもスライドで考え方が示されており、職員はキャリアアップをイメージできるため目標を立てやすく、働き甲斐につながる仕組みとなっている。
3	タイトル	利用者が自分の計画に興味を示し、目標達成に向けて取り組む様子が記録されている
	内容	職員は、計画作成時に利用者・家族と面談を行い、現状を把握し、その時々々の困りごとを明確にし、今後どうしたいのか、どのように取り組むのかを話し合い、計画を策定している。その関わりがあるため、多くの利用者が自分の計画を理解し、目標に向かって日々の活動に取り組んでいる。また、職員は日々の支援の中で各利用者が目標を達成できるように、そばに寄り添い、助言や励ましを行っている。その支援内容は「サービス提供記録」として記入し、家族に伝えている。これらの経緯は支援経過記録に残され、管理台帳に蓄積される仕組みとなっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	目標達成のために工夫している日々の支援方法を職員間でより一層共有していく
	内容	利用者は、当事業所に来て良かった理由として、「他者と交流ができる」「いろいろな活動ができる」「自分の役割が発揮出来る」などをあげている。職員は、これら利用者の意向をくみ取り、計画を作成している。目標では「楽しく活動する」「〇〇の作業を頑張る」「工賃アップを目指す」などを掲げているが、職員間で情報共有するノートには、目標に対する支援方法よりも、利用者の健康状態に関する事柄が残される傾向がある。今後は、職員が目標達成のために工夫している日々の支援方法を、支援経過記録内でも共有していくことを課題としている。
2	タイトル	採用、育成・研修等により、人材確保と育成・定着に力を入れていく
	内容	新規事業所の開所を控え、当事業所からの異動も予定されている。そのため、引継ぎ、人材育成、欠員募集等でサービスの質を落とさないよう取り組んでいる。新規事業所も開所当初は利用者も少ないことが想定され、事業所間の連携で人員的な部分はカバーできると思われるが、今後も引き続き、採用活動と人材育成に継続的に取り組んでいくことを課題としている。
3	タイトル	支援の展開サイクルに対応すべく、各帳票類の綴じ方を検討していく
	内容	その年度における個別の利用者支援に必要な帳票は、利用者の現状のフェイスシート・アセスメントシート・個別支援計画書・モニタリング表・ケアカンファレンス(会議録)・サービス提供記録(家族との連絡帳)・関係機関とのやりとり記録・相談員記録・支援経過記録などと様々である。これらの帳票は個別に綴じられているものから、月ごとにまとめられて綴じられているもの、会議録として綴じられているものなどがあり、各台帳の中で情報に重複もある。今後は、帳票を支援の展開に即した綴じ方にしていくため、方法を検討していくことを課題としている。